



下田市議会だより

6月
令和5年
(2023)
No.86



- P 1 新議長あいさつ、議員名簿・会派等
- P 2 機構図、1月臨時会・3月定例会総括
- P 3・4 総務文教委員会審査報告（当初予算の概要）
- P 5 産業厚生委員会審査報告（当初予算の概要）
- P 6 産業厚生委員会継続調査報告
- P 7・8 市政を問う一般質問
- P 9 議案等の審議結果

「新たな議員の顔ぶれ」
(下田市議会議場)

議長に中村 敦氏、副議長に江田 邦明氏



議長
中村 敦

【新議長あいさつ】

令和5年4月の選挙において、下田市議会はまさに“生まれ変わり”しました。定数13人中の8人が新人になり、平均年齢が70才から61才に変わり、さらに女性が2人加わりました。これは前体制で議会改革検討会を立ち上げ、研究・推進してきた“あるべき姿”であり、一つの成果と言えます。新人議員達は教育、経済、当局OB、医療など様々なバックボーンとまちづくりへの熱い思いを持っています。本市には様々な課題がありますが、世界から求められる多様性と受容性をもった活発な議論の場となるよう、議長として牽引してまいります。

また前年度には葉山町と那須町が友好都市となりました。議会改革の面で、早稲田大学マニフェスト研究所による議会改革度調査では両町共にランキング二桁入りを果たしており、本市よりはるかに進んでいます。議員の任期は4年であり、スピード感を持って自らを改革することが求められますが、ICT化を含め、両町から多に学ばせていただきたいと思います。新生議会をよろしくお願いいたします。



副議長
江田 邦明

議員名簿



柏谷 祐也
議席番号1 38歳
総務文教委員



大西 將由
議席番号2 51歳
総務文教委員
議会運営副委員長



浜岡 孝
議席番号3 62歳
産業厚生委員
議会運営委員



土屋 仁
議席番号4 63歳
総務文教委員長



長友 くに
議席番号5 76歳
産業厚生委員
議会運営委員



天野 美香
議席番号6 57歳
総務文教副委員長



岡崎 大五
議席番号7 60歳
産業厚生副委員長
議会運営委員



楠山 俊介
議席番号8 69歳
産業厚生委員
議会運営委員



中村 敦
議席番号9 55歳
産業厚生委員
議長



渡邊 照志
議席番号10 72歳
総務文教委員



鈴木 孝
議席番号11 60歳
産業厚生委員長
議会運営委員



沢登 英信
議席番号12 81歳
産業厚生委員
議会運営委員長



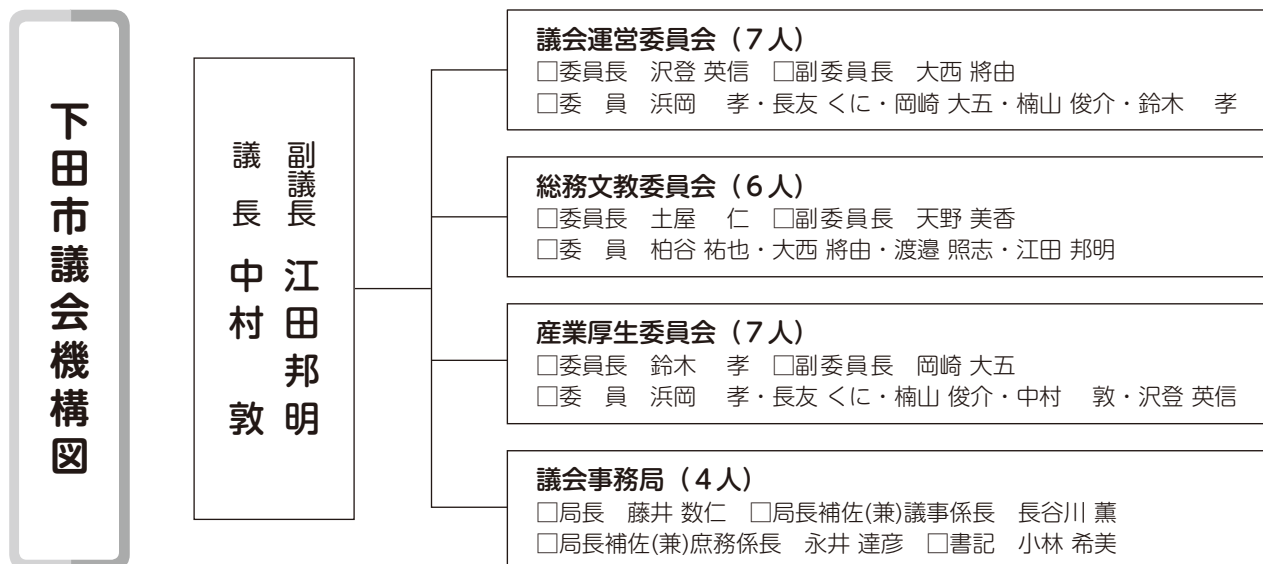
江田 邦明
議席番号13 51歳
総務文教委員
副議長

一部事務組合

- 南豆衛生プラント組合議会（5人）
大西將由・浜岡 孝・岡崎大五・楠山俊介
渡邊照志
- 伊豆斎場組合議会（2人）
大西將由・中村 敦
- 下田地区消防組合議会（3人）
柏谷祐也・沢登英信・江田邦明
- 一部事務組合下田メディカルセンター議会（2人）
浜岡 孝・天野美香
- 南伊豆地域清掃施設組合議会（4人）
柏谷祐也・土屋 仁・長友くに・鈴木 孝

議会内会派

- 日本共産党（1人）
沢登 英信
- 緑のしもだ（1人）
長友 くに
- 市政会（3人）
江田 邦明・岡崎 大五・天野 美香
- 清新会（7人）
渡邊 照志・中村 敦・楠山 俊介・土屋 仁・
浜岡 孝・大西 將由・柏谷 祐也
- 公明（1人）
鈴木 孝



□ 1月臨時会総括

令和5年1月30日から2月1日の3日間を会期とする1月臨時会が開かれ、教育委員会委員の任命について、敷根地区での大型ごみ焼却施設の建設に関する住民投票条例の制定についての2議案が上程、審議されました。

1名の辞任に伴う下田市教育委員会委員の後任として下田市在住、西川紀栄氏が即決承認されました。任期は前任者の残任期間となる令和7年12月13日までとなります。

1市3町で進んでいる広域ごみ焼却施設建設計画の可否にかかる「住民投票条例の制定について」の議案は、産業厚生委員会に付託されました。審査及び審議の結果、同委員会、本会議ともに賛成少数で否決となりました。同条例制定の要望は、下田市選挙管理委員会審査の結果、有効署名数は2,300人でした。

□ 3月定例会総括

市議会3月定例会は、2月27日から3月17日までの19日間を会期として開催されました。議案は補正予算関連7件、新年度予算関連10件、条例改正6件の他、補正予算修正案、新年度予算修正案、人事案件追加1件、発議1件が審議、採決されました。また、一般質問は6名の議員が17件（詳細別掲P7・8）について2日間に

わたり行いました。

補正予算の内、新庁舎整備工事に伴う既存施設解体工事費3,000万円の債務負担取りやめを求める補正予算修正案は、賛成少数で否決されました。

新年度予算関連の議案審議に先立ち、松木市長より令和5年度施政方針が表明され、「下田市のような地域の個性が残っているところが再評価されており、幸福な縮小社会を目指したい。」と理解及び協力を求めました。また、新年度に向け新しい副市長選任の同意が市長より提出されました。「事前の打診もなく、当日に新任副市長案を提出されても判断に戸惑う」とした意見が出されましたが、下田市在住、飯田雅之氏（賀茂地域局地域課）が議会の同意を得て、副市長への就任が決まりました。

令和5年度の当初予算は、新庁舎整備費削除と衛生費の科目変更を求める修正案は賛成少数で否決となり、歳入歳出とも118億5,000万円と原案可決となりました。

定例会最終日には、暴力のない明るく住みやすい地域社会の実現を図るため、議員発議による「暴力追放に関する決議」が全会一致で可決されました。また、年度末に当たり恒例となっている定年退職する課長級5名と退任する曾根副市長の紹介及び本人から挨拶が行われました。



令和5年度予算等の総務文教委員会所管の
主な審査項目です。

総務文教委員会

放課後児童クラブ・家庭的保育事業等の「安全計画策定」

「下田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」と、「下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例」の一部を改正するものです。

児童福祉施設の送迎バスでの重大事故多発を受け、児童の安全確保に係る規定を追加するもので、「安全計画」を策定し保護者に周知・連携することと、利用者の移動に自動車を運行する際には、点呼その他による所在の確認が規定されました。



幼稚園・認定こども園等の運営に関する条例の「懲戒権」削除

「下田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例」の第26条に、「懲戒に関してはその権限を乱用してはならない」旨の定めがありました。しかしこの条文が、体罰等の戒めを許容し児童虐待の正当化の口実とされないよう、削除されました。民法から「懲戒権」を削除した政府の法改正を受けたものです。

総合福祉会館の老人デイサービスの利用規定改定

これまで老人デイサービス利用者の給食の負担額は500円と条例に定められていましたが、社会情勢の変化に伴い「実費相当額」と改められました。当面は昼食代560円とお菓子代70円の計630円となります。

審査



これまでどおり、金額で明記すべきとの反対意見がありました。しかし利用者には事前に説明される事から現場での混乱は無いとし、また食事を楽しみとする利用者の意向を尊重する立場から原案は可決されました。

個人番号の利用に関する条例の一部改正

生活保護受給者並びに生活保護法に準じて保護を受けている外国人が医療機関等を受診する際には、福祉事務所が発行する医療券により資格確認を行ってきました。個人番号によるオンライン資格確認が導入されることで、今後マイナンバーカードのみで可能となるため、医療券等の発行が不要となります。生活に困窮する外国人の利便性の向上と事務手続きの効率化に寄与するものです。

新庁舎建設事業 計8億2,547万7千円

旧稲生沢中学校技術棟他の解体工事3,000万円、旧校舎改修工事（エレベータ設置含む）に7億円、新築棟設計業務に7,200万円等です。旧校舎の改修工事については、設計を令和5年6月中に終え、年度内の工事完了を予定します。新築棟等の整備については先にプロポーザルにより決定した株式会社SUEP.と共に進め、年度内の設計完了、令和7年度内の工事完了を予定しています。

審査



全体計画が見えない中での予算計上は時期尚早との反対意見がありました。しかし財政上有利な緊急防災減災事業債の期限を考慮すると極めてタイトなスケジュールであること、旧体育館の活用を含む、事業費抑制に対する当局の柔軟な姿勢、旧校舎活用棟の各課配置案の妥当性などを総合的に勘案し、委員会ではやむを得ない予算と認めました。

また議場と関連課・設備については旧校舎活用棟完成時に先行移転する計画ですが、新築棟完成時の再移転は不要との意見を議会としてまとめ、当局に申し伝えました。

下田中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入

コミュニティ・スクールとは、自治体と学校と保護者や市民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え、地域とともに地域ならではの学校づくりを進める仕組みです。

少子化人口減の当地域においては、子育て世代の若者に魅力ある、住みやすいまちづくりが最大の課題です。当事業はその一翼を担うものであり、移住希望者にとって関心の高い教育分野においての重要な事業であり、今後の発展が期待されます。

※市では市民・企業・団体等の「学校応援団」を募集しています。

問い合わせ：生涯学習課 0558-23-5055



グローバルCITYプロジェクト推進等新規事業

■ムーア・アロハ財団交流事業 191万8千円

下田中学校生徒がハワイを訪ね、東京五輪女子サーフィン金メダリストのカリッサ・ムーアさんが設立した「ムーア・アロハ財団」のもと、サーフィンのみならず、各種異文化交流を実施し、学校教育の国際性や多様性を推進します。

■ユニバーサルビーチイベント 66万円

世界一の海づくりを推進する下田市として、海の魅力化推進と多様性の環境整備を見据え、車椅子での海水浴を実現します。外浦海水浴場を舞台にした数日間の試験的取り組みですが、将来の常設化を模索するものとして期待されます。

■リサイクルポロシャツ作成 132万円

下田市は令和4年度より、美しい海の環境保全意識向上の一環として「海浜回収ペットボトルリサイクルプロジェクト」を実施しています。この活動等により回収された海浜ペットボトルを分別・洗浄・再資源化した繊維でポロシャツを作り販売することで、環境負荷の低い製品としてよみがえらせる「アップドリフト」の取り組みを体現し、市民への環境美化や海洋プラスチック問題の啓発に貢献するものと思われま



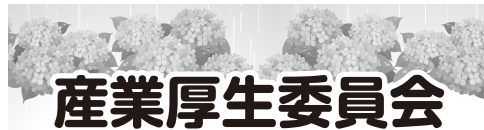
市民文化会館・市民スポーツセンター改修工事 合計2億4,840万円

■市民スポーツセンターのアリーナと施設内の照明をLED化する工事に3,790万円、外壁タイルの改修工事に450万円です。老朽化した設備の更新と、脱炭素・省エネに貢献するもので、令和5年12月中の完了を予定します。計4,240万円。

■市民文化会館大ホールの舞台照明調光盤更新工事に9,600万円、小ホールの照明改修工事4,700万円、同空調設備改修工事3,100万円等の計2億600万円です。これら改修・更新工事により、市民文化会館の20年程度の延命化を実現するものです。令和5年度内の完了を予定します。



令和5年度予算等の産業厚生委員会所管の
主な審査項目です。



産業厚生委員会

母子保健 国民健康保険条例の改正（出産育児一時金の額を50万円に引上げ）

令和4年度の全国における出産費用の平均額の推計等を勘案し、国より全国一律で50万円に引上げる内容の通知があり、令和5年4月1日より出産育児一時金の支給額を引上げるものです。市内での出産は通常分娩が多く費用が安くなっていますが、分娩費用の市内平均は約45万3千円、県内平均は約47万7千円、最高額は約57万6千円とされています。

| | 出産育児一時金 | 産科医療保障制度掛金 | 合計支給額 |
|-------|----------|------------|----------|
| 現 行 | 408,000円 | 12,000円 | 420,000円 |
| 改 正 後 | 488,000円 | 12,000円 | 500,000円 |
| 増 減 | 80,000円 | 0円 | 80,000円 |

ごみ減量対策 生ごみ減量・資源化推進事業 計126万円

家庭における生ごみの自家処理を推進する事業で、これまでの家庭用生ごみ処理機器の購入補助金で30台、令和5年度は新たに生ごみ処理機「キエーロ」を活用したモニター制度で20台を普及させるものです。

要望



モニターとして参加いただく方には、データの収集にとどまらず、ごみ減量化・資源化の普及に関わるキーマンとしての役目も担っていただきたい。



【生ごみ処理機「キエーロ」】

移住・交流居住 移住・交流居住推進事業 計1,981万2千円

移住・就業支援補助金は、国が実施する移住・就業支援策に基づき交付される財源等を活用し、市内への移住を推進するもので、令和5年度は単身で3世帯、家族で5世帯の移住を見込むとしています。その他、移住・交流居住の推進にあたり、地域おこし協力隊（移住コーディネーター部門）とも連携し、休日相談・体験ツアーや移住希望者滞在費補助金、空き家バンク登録物件管理等を実施するものです。

観光まちづくり 下田市観光協会補助金 計5,346万8千円

令和5年度は、夏期のイベント「ビッグシャワー」及び黒船祭の事業を拡大する他、アドバイザーの活動日数を増やすことで、戦略的なリピーター獲得や市内経済への効果、自主財源の確保を図っていくとしています。

| | | |
|------------|--------------|-----------|
| 下田市観光協会補助金 | 通常分 | 3,675万1千円 |
| | 外国人観光案内分 | 150万円 |
| | OTA等広報分 | 400万円 |
| | ビーチライブカメラ設置分 | 200万円 |
| | アドバイザー分※ | 321万7千円 |
| | デジタルコンテンツ強化分 | 600万円 |



※下田市の観光に対するアドバイスや、観光資源の磨き上げの強化アドバイスを年間通じて行い、観光客増と財源確保を図る。

伊豆縦貫道建設促進 IC周辺まちづくり基本計画策定業務委託 1,300万円

（仮称）下田北インターチェンジ周辺を中心とした、稲梓地区のまちづくり計画を策定するもので、地元とのワークショップや検討会の開催を含めたものです。

南伊豆地域広域ごみ処理基本構想について

本継続調査は、市民より請願のあった特別委員会による検討・審査に対し、議会として引続き常任委員会で審査をおこなっていくという回答もあり、常任委員会の閉会中の継続調査として実施したものである。

なお、議員の任期もあり調査期間が限られていることから、同基本構想から調査テーマを次の4つに絞った。また、委員会として独自に調査研究を展開し、基本構想の是非及び具体的な回答を導くのではなく、基本構想における検討課題及び指摘事項を示し、現在策定中の施設整備基本計画や事業等の実行に反映させていくことを目的とした。

- ①広域化について（1市3町でやるのが妥当なのか）
- ②新築、改良どちらがより良いか
- ③場所について
- ④規模（事業費等の財政問題、ごみの減量化含む）

調査方法については、会議録及び会議で使用した資料等を参照するとともに、参考人として環境対策課長等の出席を求めた。



【検討用に合成した地図】

【まとめ】

人口減少が加速している賀茂地域においては、これまでも住民サービスを維持するため、ごみ行政以外にも様々な分野で広域化・広域連携が進められている。南伊豆地域広域ごみ処理事業は、施設のライフサイクルからも長期にわたるもので、新たなごみ処理システムの構築と、将来を見据えた環境への影響、維持管理コストの縮減が求められている。こうした点を含め、今後のごみ行政に求められる「ごみの減量化・資源化」は住民や事業者と行政が協働して進めていくものであり、十分な情報提供や意識啓発が求められる。

本委員会における4つのテーマに対する調査においても、説明が不十分とされる箇所があった。今後の住民に対する説明及び施設整備基本計画や事業実施等に反映させていくことを求め、次の意見を付し本委員会における継続調査の報告とする。

- ライフサイクルコストを比較検討する観点から、延命化できない理由または延命化した場合の耐用年数と費用、新築した場合の耐用年数と費用を示すこと
- 現在地と比較対象地または比較対象地区を地図等で可視化し、そのメリット・デメリットを示すこと
- 「ごみ減量化・資源化推進ロードマップ」を作成し、葉山町のキエーロ等生ごみ処理器の普及活動を参考に、市民の自主的活動を促進すること
- 脱水汚泥の焼却処理について詳細を示すこと
- 建設炉の規模の縮小化を検討すること
- 資源化施設に関して、同施設の先行整備及び容器包装プラスチック処理について検討すること

※調査過程の意見や委員会の活動状況等を掲載した報告書（全体）は、下田市ホームページ「下田市議会」に掲載していますので、右記QRコードよりご参照ください。



市政を問う一般質問



下田市役所ホームページから「一般質問」で検索していただくと各議員の一般質問の動画視聴・会議録の閲覧ができます。

一般質問

検索



中村 敦 議員



【動画】

- ① 社会の変化に対応した行財政改革、漁業振興や市民協働について
- ② 爪木崎野水仙群生地の管理について



【会議録】



① 高度経済成長期からバブル、失われた30年から人口減少少子高齢化社会へという社会の変化に対しては、行政も当然に追従・変化しなくてはなら

ないが、当市ではどのように変えてきたか。好景気時代に設定した公共サービス料金がそのままであれば財政は立ちゆかなくなる恐れがあるため、事務事業の見直しや受益者負担の適正化による財政の再構築が必要である。またサービス業に偏った産業構造であっても、予算措置に

おいては年齢別、教育福祉等分野別、漁業等産業別に公平でないといけませんがどうか。例えば漁業振興についてどのような方針でどのような施策を行ってきたか。ゴミ処理行政においては生活ゴミと事業系ゴミを区別し適切な受益者負担がされているか、などについて問うた。

② 誘客型観光施策からおもてなし型施策へシフトすべきと継続して訴えてきた。では水仙祭り会場である爪木崎一帯の水仙の管理は十分であるか。近年その咲き方が芳しくないとの声も聞かれるが、どう認識し管理しているか問うた。

渡邊 照志 議員



【動画】

- ① ヤングケアラー支援条例の制定について
- ② 地震に対する家屋、ブロック塀の東海に対するTOUKAI-0事業について



【会議録】



① ヤングケアラー支援条例の制定について

令和4年10月に行われたヤングケアラーに対する下田学区の児童生徒のアンケートの結果、

市役所に対する問いあわせ、相談の有無を関係する2課、1事務所に質問しました。子供たちが子供らしく過ごせるよう、支援を受けやすくするため、下田市支援条例を早く制定して頂くよう求めました。

② 地震に対する家屋、ブロック塀の東海に対するTOUKAI-0事業について

市当局の本年度目標の住宅耐震診断戸数20戸、耐震改修工事個数4戸に対する結果について質問しました。又ブロック塀の倒壊防止に対する実績結果にも質問しました。低価格で倒壊を防ぐことの出来る耐震シェルターのその後の設置状況について、持ち家、ブロック塀倒壊の際、他人に被害を与えた場合の責任補償についても質問しました。

矢田部 邦夫 議員



【動画】

- ① 庁舎建設事業の確認について
- ② 旧グランドホテル取得事業の確認について
- ③ 1市3町広域ごみ処理事業について



【会議録】



① 庁舎建設事業の確認について
市の最優先課題であったが、国道からの出入り口を地権者に断ったことで、現在のムリな事業に繋がっていると説明。

未だに、体育館を活用するのかハッキリしていないが活用するならば、新築棟は物価高騰の折、諦めた方が良いのではと提言した。

② 旧グランドホテル取得事業の確認について

当局の算定基準にムリがあり、北海道旭川市上川町「ホテル層雲」釧路市弟子屈町の「旧グラン

ドホテル・旧御園ホテル」は長年に亘り、町が国へ陳情し、環境省が解体を請け負った事例を説明し、取得した旧グランドホテルは今直ぐ倒壊の恐れはないと思いますので、市長自ら熱意を持って国へ陳情するよう要望しました。

③ 1市3町広域ごみ処理事業について

人口減少の加速化、財政への負担を考えると、当局が市民に協力をお願いし、5年計画でごみの減量化(分別)を働きかけ、多額の事業費は考えるべきではないかと質問しました。

江田 邦明 議員



【動画】



南伊豆地域広域ごみ処理基本構想で示された脱水汚泥の焼却処理について、住民及び議会に十分な説明がされていません。令和5年度以降、事業主体を一部事務組合で引継ぐことから、次の3つの視点で詳細を問いました。

①これまでの説明は、年間785tの脱水汚泥を焼却するのみで説明が不十分である。②総合計画、環境基本計画等では、温室効果ガス排出量の削減や処理汚泥の炭化・資源化を掲げており、脱水汚

脱水汚泥を敷根地区で焼却することについて 緊急質問：伊豆中央道と修善寺道路の無料化延長



【会議録】

泥の焼却は上位計画と矛盾している。③脱水汚泥の焼却で発生する一酸化二窒素は、二酸化炭素の約300倍もの温室効果があり、温室効果ガスの排出抑制を目指す地球温暖化対策実行計画及び「ゼロカーボンシティ」に相反する関係にある。

また、緊急質問として、伊豆中央道と修善寺道路の無料化延長について、静岡県の説明内容及び国道414号整備促進期成同盟会が要望した内容、住民合意形成、市長の考えを問いました。

佐々木清和 議員



【動画】



市長及び当局に正鵠な五つの質問を致しました。要旨は、庁舎移転・敷根地区での大型ごみ焼却施設建設計画・下田グランドホテルとグローバルシティ構想・子供政策、子育て支援・白浜大浜海水浴場における暴力団による威嚇についての質問

12月定例議会で学校給食費の公費負担を、令和5年度も継続して実施すべきであると主張しました。国も子供政策並びに子育て支援が最大の課題としている他の自治体も、学校給食費の公費負担

庁舎移転・敷根地区での大型ごみ焼却施設建設計画・下田グランドホテルとグローバルシティ構想・子供政策、子育て支援・白浜大浜海水浴場における暴力団による威嚇について



【会議録】

を実施する自治体は多く、下田市も数年前より学校給食費の公会計処理が導入され、学校給食費が公金として処理されています。昨年8月、国の交付金を活用して学校給食の無償化を進めてきたが本年度の予算では学校給食費の公費負担は見送られている。学校給食は学校教育の重要な食育に係る問題、教育の機会均等という観点からも、学校給食費の公費負担は歴史的な流れであり、財政事情によって実施したり、しなかったりとするような問題ではないと主張いたしました。

沢登 英信 議員



【動画】



南伊豆地域ごみ処理計画の中止を求めて

市は準工業地域である敷根の現在地に1市3町の焼却炉を造ることは都市計画上も、交通アクセス上も適地であると強弁している。

文教地区であり、住宅地に隣接している現在地に建設する事は子ども達の健康、環境にも最悪の選択です。

焼却灰にはダイオキシンや水銀、窒素酸化物、硫黄酸化物、塩化水素、煤じん等の有害物質が含

①「ケアラー支援条例」制定 ②学校給食の無償化について ③県道下田南伊豆線の拡幅通学路等としての整備について ④南伊豆地域広域ごみ処理計画の中止を求めて



【会議録】

まれている。焼却炉は有害ガスを排出する施設なので、人家の無い所に移転すべきなのに、1市3町のごみを集め、倍もの年14,000トンからのごみを20年間も燃し続けることなど多くの市民は認めていない。時代は燃すのではなく、資源化に向かっている。



スマートフォンでQRコードを読み取ると各議員の一般質問の動画視聴・会議録の閲覧ができます。





令和5年 1月臨時会・3月定例会 審議結果

Table with 3 columns: 番号, 審議結果, 審議結果. Rows include items like '教育委員会委員の任命について' and '令和5年度下田市一般会計予算'.

《賛否の分かれた議案》

(○：賛成 ×：反対 欠：欠席 -：退席)

Table with 13 columns for members and 1 column for '審議結果'. Rows list various council proposals and the voting status of each member.

※議長（滝内久生）は、可否同数の裁決以外は、採決に加わりません。

編集後記

4月23日の市議会議員選挙で選出された議員13名の集合写真を今回の議会だよりの表紙に掲載させて頂きました。

13名の議員中、新人議員は8名となり、議員構成も大きく変わりました。議場は「下田市を良くしたい」とのフレッシュな意気込みで溢れているのが感じられます。

コロナウィルス感染症と戦った3年数ヶ月を経て、どの様な生活を良いと感じるのかの価値観も大きく変わりつつある時代となりました。新しい下田市を築くため各議員が多様な意見を出し合い、答えを導き出していく必要性を強く感じております。

(鈴)

下田市議会の活動に役立てるため、市民の皆様の声を電話・メール・FAXで右記（欄外記載の連絡先）までお寄せください。



- この広報誌は、ユニバーサルデザインをコンセプトに開発された可読性・視認性・判別性に優れたUDフォントを使用しています。
この広報誌は、再生紙を使用しています。

発行 下田市議会
編集 広報委員会
住所 下田市東本郷一丁目5番10号

TEL 0558-22-2220
FAX 0558-27-1511
E-mail: gkajimu@city.shimoda.lg.jp

広報委員会
委員長 鈴木孝
副委員長 岡崎大五
委員 天野美香 江田邦明 土屋仁

議会HP

